

未来への遺産

岡山県 教育の理想郷「旧閑谷学校」

旧閑谷学校は、岡山県東部の備前市閑谷にあり、建物が現在も残っている中では、日本で最も古い庶民のための学校です。

名君と称された岡山藩主池田光政は、四方を山に抱かれたこの地を「山水清閑」で「読書講学」に理想的な場所と称賛し、寛文十年（一六七〇年）に学校建設を命じました。その後約三十年をかけて、主要な建物に赤褐色の備前焼瓦をふいた建造物群が完成しました。

また、光政の子綱政は、たとえ池田家が改易となっても学校が存続するように、周辺の田畑山林を農民から購入して学校の所有地とし、ここからの小作料収入でも学校を維持・運営できるように図りました。

閑谷学校は、領内の庶民教育の場として開校しましたが、その存在は全国に知られ、各地からの来学や視察が相次ぎました。幕末に訪れた熊本藩の儒学者横井小楠は、幕府の昌平坂学問所以外にはこれほど壮麗な学校はないと称賛しています。

明治維新後、学校西部にあった学舎や宿舍などは新しい校舎建設のため取り壊されました。しかし、四書五経の講釈が行われた講堂（国宝）を始め、孔子を祭った聖廟、池田光政像を安置する閑谷神社、学校を取り巻く独特の曲線美を

見せる石塀などの建造物群は、当初の威容を誇ったまま残り、いずれも国の重要文化財に指定されています。また、江戸時代における学校施設の典型として教育史上価値が極めて高く、規模、建造物とも優れていることから、特別史跡にも指定されています。



旧閑谷学校講堂

独特の曲線美を見せる石塀



講堂は現在でも、岡山県青少年教育センター閑谷学校の研修などで使用されており、教育の理想郷を目指した先人たちの思いが受け継がれています。

お問い合わせ

岡山県教育庁文化財課

TEL 〇八六―二二六―七六〇一